

おうち時間に一輪の花を

新型コロナウイルスの感染拡大の影響により式典やイベントが中止や延期となり、花の需要が減少している。

農林水産省は花の購入促進のため、3月より「花いっぱいプロジェクト」と題し、家庭や職場に花を飾ろうと呼びかける取り組みを行っている。同省の若手職員が登場してプロジェクトをPRする動画では、2人の職員が正面のカメラに向かって真面目な口調で呼びかけをしているのだが、場面が切り替わるたびに彼らのまわりに花が増えてゆき、最後は画面いっぱいの花に2人が埋もれてしまう。頭にも花が乗せられており、思わず笑みがこぼれるような、若者にも花が身近に感じられるPR動画になっている。

自由に街を歩き交うことが以前より難しくなっている今、郵便受けに花が毎月届く定額制の花宅配サービスが人気だ。消費者は店頭に行かずに自宅で花を受け取ることができる。サービス提供者と提携する各地の生花店は花の需要が減少する中でも安定した収入源が得られるなど、消費者だけでなく生花店にもメリットのある仕組みとなっている。

三重県民はどちらかといえば花好きのようだ。総務省「家計調査」（2019年）によると、都道府県庁所在市のうち、津市の園芸植物の購入額は6位（前年は3位）、切り花は15位（同13位）、園芸用品は13位（同6位）と上位に位置している。特に園芸やガーデニングなどの土いじりはストレス解消に効果的といわれている。三重県民はコロナ禍でも自宅時間を豊かに過ごすすべをすでに心得ているのかもしれない。

たとえ家に庭やベランダがなくても、一輪の花を花瓶に飾るだけで気持ちが明るくなる。今日の帰り道、花屋をのぞいてみてはいかがだろうか。

（会員事業部 研究員 鈴木 理可）